

新型コロナウイルスの感染予防のためのマスクとティッシュの捨て方について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、使用したマスクやティッシュは、透明または半透明のビニール袋などに入れ、しっかり縛って封をしたうえで市指定の燃やせるごみの袋に入れて出してください。

大切なご家族だけでなく、ごみを扱う市の職員や廃棄物処理業者の感染予防につながります。ご協力のほど、よろしくをお願いします。

☎ごみ減量推進課ごみ減量推進係 ☎042-493-3750

①ごみに直接触れない



ごみ箱にあらかじめ袋をかぶせ、マスクやティッシュなどでいっぱいになる前に早めに縛って封をしましょう。

②ごみ袋はしっかり縛って封をする



万が一ごみ袋のなかに入れたマスクなどがごみ袋の外側に触れた場合、二重にしてごみ袋に入れましょう。

③ごみを捨てた後は手を洗う



石鹸を使い、流水でしっかり洗い流しましょう。

ごみ・資源物の分別を徹底しましょう

3月19日午前9時20分ごろ、柳泉園組合の可燃ピット内で火災が発生しました。施設の損傷はなく、当日の午後1時に搬入が再開されました。可燃ごみに危険物などが混入すると火災が発生する場合があります。

今一度、分別方法を確認していただき、安全な収集及び処理にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

☎ごみ減量推進課ごみ減量推進係 ☎042-493-3750

【危険物・リチウムイオン電池などの分別】

・危険物(スプレー缶・使い捨てライター・カセットボンベ)

透明または半透明の袋に「危険」の「き」と書いて不燃物として、指定収集日の午前8時30分までに出してください。

・リチウムイオン電池などの小型充電式電池

JBRC登録協力店の回収ボックス、または市内各公共施設に設置してある使用済み小型家電回収ボックスへ入れてください。



戸別収集での鳥獣被害を防ぐために

10月からごみ・資源物の戸別収集が始まります。

戸建住宅では敷地内に出したごみを、カラスなどの鳥獣に荒らさ

れないよう対策を行いましょ。

☎ごみ減量推進課ごみ減量推進係 ☎042-493-3750

◆鳥獣被害からごみを守るために

カラスは臭覚ではなく視覚でエサを識別しているため、容器に入れたり生ごみを新聞紙などで包んだりして外側から見えなくすることでカラスからの被害を防ぐことができます。



また、カラスは同じ高さで飛び続けることができないため、フックなどを利用し自宅のフェンスや塀などから吊り下げることでも被害を防ぐことができます。目安としては地上から50センチ以上の高さにぶら下げると効果があります。



消費生活相談の現場から

新型コロナウイルスに便乗した悪質商法や、効果をうたう商品にご注意!

どんな時にでも悪質商法は便乗してきます。新型コロナウイルスを巡っていくつかの悪質商法と思われる誘いが消費者を狙っています。また、不安な消費者に向けて予防効果をうたう商品もネット上で数多く販売されています。

【事例1】

「新型コロナウイルスの感染を防ぐために行政から消毒業務を委託されている。資料を持って訪問したい」という電話がかかってきた。本当の話だろうか。

【事例2】

「特別なルートがあり、大量にマスクを入荷しました。早いもの順に譲ります」というメールがスマホに入った。

手続きは以下へとURLが添付されていた。

【アドバイス】

行政から委託されたという業者からの怪しい電話や訪問が増加しています。行政が新型コロナウイルスに関し施策や対策を行う時は、必ず公式ホームページや広報紙でお知らせします。

おかしい、と思ったら、市の担当部署や、消費生活センターに問い合わせてください。事例2のよ



うな場合、もちろんマスクの話は餌で、安易にURLを開けるとスマホ内の情報を抜き取られる恐れがあります。

また、インターネット広告で新型コロナウイルスに対して予防効果を掲げる、健康食品、マイナスイオン発生器、空間除菌商品などが氾濫しています。消費者庁は景品表示法、および健康増進法の観点から緊急監視を実施し、当該表示を行っている事業者やショッピングモール運営事業者に対し、緊急的に改善要請を行いました。3月10日時点で30事業者による46点の商品がありました(消費者庁ホームページ参照)。新型コロナウイルスに対しては根拠のない噂に惑わされず、正確な情報に基づいて冷静に対応しましょう。

☎消費生活センター ☎042-495-6212 (相談専用)

2020年は清瀬市市制施行50周年 手よ KIVOSE タイムトラベルS40s 第8回 下宿 清柳橋とふせぎの蛇

写真は昭和44年、市内の橋のなかで最も北にある清柳橋の姿を上流に向かって写したものです。

橋には、幣束と護符のついた藁の小さな蛇が取り付けられています。小さな蛇は、下宿の「ふせぎ行事」で大蛇とともに複数作られ、かつての村境に取り付けられるものです。この写真は行事が行われた5月1日に撮影。

現在の「ふせぎ行事」は、生活の変化などにより、祝日の5月3日に行われています(今年は中止)。

写真の清柳橋だけでなく、城前橋や金山橋も昭和40年代にはまだ木造でした。清柳橋は、昭和55年に架け替えられています。

清柳橋近くに現在ある清瀬水再生センターは、昭和56年に清瀬処理場という名称で運用が開始されました。その建設にあたって発掘された市内最大の遺跡、下宿内山遺跡からは、旧石器時代から現代に至る人々の生活の痕跡が見つかっています。



新たな『清瀬市史』の編さん事業を行っており、昭和・平成の清瀬の写真を集めています。ご協力ください。~この記事は、今までの収集資料に基づき市史編さん室が担当しています~